

【記載例】

様式例第5号の1

農地所有適格法人報告書

事業年度 自 令和 ○年○○月○○日
至 令和 ○年○○月○○日

報告する事業年度の期間
を記入

令和 ○年○○月○○日

田舎館村農業委員会会長 殿

法人の名称 株式会社 ○○ファーム
代表者氏名 代表取締役 田舎 太郎
電話番号 ○○○○－ ○○ －○○○○

押印は省略

下記のとおり農地法第6条第1項の規定に基づき報告します。

記

1 法人の概要

法人の名称及び代表者の氏名	株式会社 ○○ファーム 代表取締役 田舎 太郎			法人名義の農地が無い 場合は「無」に丸印
主たる事務所の所在地	田舎館村大字○○字△△×番地×			
経営面積 (ha)	所有農地の有無	有	無	
	田	1 5 ha		
	畑	2. 5 ha		
	採草放牧地			
法人形態	株式会社			

2 農地法第2条第3項第1号関係 (1) 事業の種類

粗収益の50%以上を占めるものを記載します。
50%を超えるものが無い場合は、粗収益の多いもの
から順に3つ記載します。

区分	生産する農作物	関連事業等の内容	左記農業に該当しない事業 の内容
実績	水稻	農作業受託、加工、肥料 の販売	造園業、アパート賃貸事業
翌事業年度の計画	水稻	農作業受託、加工、肥料 の販売	造園業、アパート賃貸事業

(2) 売上高

年度	農業	左記農業に該当しない事業
報告対象年度の2年前(実績)	12,345,678円	3,619,332円
報告対象年度の1年前(実績)	13,098,765円	3,401,335円
報告対象年度(実績)	13,567,890円	3,743,868円
翌事業年度の計画	13,600,000円	3,800,000円

3 農地法第2条第3項第2号関係

構成員全ての状況

記入欄が足りない場合は、別紙にしても構いません。

(1) 農業関係者（権利提供者、常時従事者、農作業委託者、農地中間管理機構、地方公共団体、農業協同組合、投資円滑化法に基づく承認会社等）

氏名又は名称	住所又は主たる事務所の所在地	国籍等	在留資格又は特別永住者	議決権の数	構成員が個人の場合は以下のいずれかの状況				
					農地等の提供面積(㎡)		農業への年間従事日数		農作業委託の内容
					権利の種類	面積	直近実績	翌事業年度の計画	
田舎 太郎	田舎館村大字田舎館字〇〇△△-△	日本		50	賃借権	20,000	250	250	全作業 田植え、稲刈り
和泉 花子	田舎館村大字畑中字〇〇△△-△	日本		20	使用貸借	5,000	250	250	
高樋 次郎	田舎館村大字八反田字〇〇△△-△	日本		10	賃借権（中）	15,000	200	200	
豊蒔 三郎	〇〇市大字××字〇〇△△-△	日本		10			60	60	

中間管理機構を通して法人に農地を貸付している場合は、「(中)」と記入。

上記表の「農業への年間従事日数」の合計日数

議決権の数の合計	90	その法人の行う農業に必要な年間総労働日数	760日
農業関係者の議決権の割合	90%		

(2) 農業関係者以外の者（(1)以外の者）

氏名又は名称	住所又は主たる事務所の所在地	国籍等	在留資格又は特別永住者	議決権の数
高田 一郎	田舎館村大字東光寺字〇〇△△-△	日本		10

議決権の数の合計	10
農業関係者以外の者の議決権の割合	10%

(留意事項)

構成員であることを証する書面として、組合員名簿又は株主名簿の写しを添付してください。
なお、農林漁業法人等に対する投資の円滑化に関する特別措置法（平成14年法律第52号）第5条に規定する承認会社を構成員とする農地所有適格法人である場合には、「その構成員が承認会社であることを証する書面」及び「その構成員の株主名簿の写し」を添付してください。

4 農地法第2条第3項第3号及び第4号関係

(1) 理事、取締役又は業務を執行する社員全ての農業への従事状況

氏名	住所	国籍等	在留資格又は特別永住者	役職	農業への年間 従事日数		必要な農作業への 年間従事日数	
					直近実績	翌事業年度の計画	直近実績	翌事業年度の計画
田舎 太郎	田舎館村大字田舎館字〇〇△△-△	日本		代表取締役	250	250	210	210
和泉 花子	田舎館村大字畑中字〇〇△△-△	日本		取締役	250	250	120	120
高樋 次郎	田舎館村大字八反田字〇〇△△-△	日本		取締役	200	200	180	180
豊蒔 三郎	〇〇市大字××字〇〇△△-△	日本		取締役	60	60	60	60
高田 一郎	田舎館村大字東光寺字〇〇△△-△	日本		取締役	0	0	0	0

「農業」と「必要な農作業」の違い
・「農業」は、農作業そのものだけでなく、企画管理や経理事務等も含めた全体的な業務のことをいいます。
・「必要な農作業」は、耕うん、施肥、病虫害防除、収穫等、耕作に必要な作業のことをいいます。営業活動や経理事務等は含まれません。

(2) 重要な使用人の農業への従事状況

氏名	住所	国籍等	在留資格又は特別永住者	役職	農業への年間 従事日数		必要な農作業への 年間従事日数	
					直近実績	翌事業年度の計画	直近実績	翌事業年度の計画

(記載要領)

- 1 「農業」には、以下に掲げる「関連事業等」を含み、また、農作業のほか、労務管理や市場開拓等も含みます。
 - (1) その法人が行う農業に関連する次に掲げる事業
 - ア 農畜産物を原料又は材料として使用する製造又は加工
 - イ 農畜産物若しくは林産物を変換して得られる電気又は農畜産物若しくは林産物を熱源とする熱の供給
 - ウ 農畜産物の貯蔵、運搬又は販売
 - エ 農業生産に必要な資材の製造
 - オ 農作業の受託
 - カ 農村滞在型余暇活動に利用される施設の設置及び運営並びに農村滞在型余暇活動を行う者を宿泊させること等農村滞在型余暇活動に必要な役務の提供
 - キ 農地に支柱を立てて設置する太陽光を電気に変換する設備の下で耕作を行う場合における当該設備による電気の供給
 - (2) 農業と併せ行う林業
 - (3) 農事組合法人が行う共同利用施設の設置又は農作業の共同化に関する事業
- 2 「2 (1) 事業の種類」の「生産する農畜産物」欄には、法人の生産する農畜産物のうち、粗収益の 50%を超えると認められるものの名称を記載してください。なお、いずれの農畜産物の粗収益も 50%を超えない場合には、粗収益の多いものから順に 3 つの農畜産物の名称を記載してください。
- 3 「2 (2) 売上高」の「農業」欄には、法人の行う耕作又は養畜の事業及び関連事業等の売上高の合計を記載し、それ以外の事業の売上高については、「左記農業に該当しない事業」欄に記載してください。
- 4 「3 (1) 農業関係者」には、農林漁業法人等に対する投資の円滑化に関する特別措置法第 5 条に規定する承認会社が法人の構成員に含まれる場合には、その承認会社の株主の氏名又は名称及び株主ごとの議決権の数を記載してください。

ここで、複数の承認会社が構成員となっている法人にあっては、承認会社ごとに区分して株主の状況を記載してください。
- 5 農地中間管理機構を通じて法人に農地等を提供している者が法人の構成員となっている場合、「3 (1) 農業関係者」の「農地等の提供面積 (㎡)」の「面積」欄には、その構成員が農地中間管理機構に使用貸借による権利又は賃借権を設定している農地等のうち、当該農地中間管理機構が当該法人に使用貸借による権利又は賃借権を設定している農地等の面積を記載してください。
- 6 2、3 及び 4 の翌事業年度の計画の欄は、報告に係る事業年度の翌年度の計画を記載してください。
- 7 2 の翌事業年度の計画、3 の住所又は主たる事務所の所在地、国籍等及び翌事業年度の計画並びに 4 の国籍等及び翌事業年度の計画の各欄については、農地を所有する農地所有適格法人のみ記載してください（ただし、3 の住所又は主たる事務所の所在地及び国籍等の各欄については、総株主の議決権の 100 分の 5 以上を有する株主又は出資の総額の 100 分の 5 以上に相当する出資をしている者に限る。）。

国籍等は、住民基本台帳法（昭和 42 年法律第 81 号）第 30 条の 45 に規定する国籍等（日本国籍の場合は、「日本」）を記載するとともに、中長期在留者にあつては在留資格、特別永住者にあつてはその旨を併せて記載してください。法人にあつては、その設立に当たって準拠した法令を制定した国（内国法人の場合は、「日本」）を記載してください。

なお、4 の (2) については、4 の (1) の理事等のうち、法人の農業に従事する者（原則年間 150 日以上）であつて、かつ、必要な農作業に農地法施行規則第 8 条に規定する日数（原則年間 60 日）以上従事する者がいない場合にのみ記載してください。